

2023・6・24 うた会

五行歌会



R5続文月号

発行人・編集長 ざしきわらし
副編集長 山田 憲路

五行歌は自由な言葉で、自由な呼吸で、うたを詠む

古代歌謡から発想したうたの短詩です。自由詩です。テーマは生活、人情、恋愛、風俗、自然、歴史、哲学……。何でもありです。全国組織「五行歌の会」(本部・東京)の草壁焰太主宰(85)が1957年に着想しました。楽しい言葉遊びとと考えてください。今すぐ誰でも詠めることが魅力です。

6月一席じーらん、二席ざしきわらし

ひめぼたる五行歌会の第33回うた会は6月24日、二戸市石切所にござランスで開かれた。うたは9首。参加者は7人。欠席は、水無月子さん、すばい殿。一席のじーらんさんのうたは7月19日の「よみうり五行歌」欄(草壁焰太主宰選)に特選として掲載された。26日には水無月子さん

のうたが同欄入選に。また、この日のうた会でルナさんから五月さんに捧げるうたが発表された。★山田憲路うた会鑑賞の記 一席のじーらんさんのうた

た。小さな人も長靴を履けば、十七世紀のフランスの詩人、シャルル・ペローの猫も長靴を履く。長靴は、晴雨人猫を選ばない。二席のざしきわらしさん

のうた。すつくと直立するその身の下に、人知れず広がる地下茎世界。アスパラガスの成長は、日進月歩。三席の果林子さんのうた。「わたしの中に清らかさが

長靴は詩人も猫も / 地下茎世界は日進月歩 / 蒲鉾顔の蒲鉾

一席

雨の日も 晴れの日も 長靴をはく 小さな人の 小さな一歩

じーらん

三席

欲たかりだな 子供の頃 母に言われたことがある この頃は ずいぶん慎ましい

果林子

すばい

二宮金次郎の像 さみしそう！ 閉校したここから巣立った 兎らはみな 大空にゆうゆう羽を 広げているだろうか

ルナ

二席

目を離れた隙に ニヨキニヨキ ニヨキニヨキ 地中にアスパラガス の秘密工場

ざしきわらし

スヘリヒユを 食へる話で しばらく盛り上がった 節約志向老人の 立ち話

浪岡末山

山田憲路

かまぼこ作りの 職人は かまぼこ みたいなの 顔してる

イイベントでの吹奏楽演奏 ソロをミソった孫から 「めっちゃ悔しい」とメール その気持ちがあればOK 次回頑張れ！ ★ルナさんから五月さんへ捧げる 詠いたき事 まだまだあははす 訃報に接し 一月のうた会の歌 私の心に深く長く 止めておこう

※ひめぼたる五行歌会の問い合わせは代表の果林子(0195・2248800)へ。

あるとすれば、それは母から受け継いだものです」と、マハトマ・ガンディー。欲たかりで慎ましい性格は、おそらく母からの贈り物。浪岡末山さんのうた。スベリヒユを話題に、今日の井戸端会議。ひとは老いてこそ、道草を食う。

すばいさんのうた。その歳になれば、無理やり乗せられる、WHOの高齢車。後期青年、いや超後期少年は、自らの足で人生を駆け抜ける。

中野忠彦さんのうた。歳を重ねるほど気になる、人生の来し方と行く末。限られた未来にも、思い出をいっぱい詰め込む人生は残されている。

じぶんのうた。丹精を込めて成形し、蒸し上げて出上来る、職人のかまぼこ。職人はそうして、自らの顔をも作り上げる。

ルナさんのうた。長年、子どもたちが巣立つ姿を見送ってきた、二宮金次郎像。閉校と共に、そろそろ自分の背中の荷を下ろしても。

水無月子さんのうた。吹奏楽の演奏会で、ソロに選ばれたからこそ、込み上げる悔しさ。その悔しさは、次の舞台でしか晴らせない。

6月14日、おひじりララとすうた会

ひめぼたる五行歌は6月14日(水曜日)、二戸市堀野の「船処たけ田」でランチうた会を開いた。

参加は6人。うたは、メンバー各位が事前に発表した「今年の私の漢字」をイメージして自由に詠んだ。通常のうた会と違って、投票なし、従って点数も順位もなしで、ただただお互いに褒め合うという趣向だ。

静

窓を開け
手を合わせ
静けさの
真中に身を置く
一日の始まり

再

再生復活を信じた
妹も遠くへ去った
もう一度
会いたいひとの
なんと多いことか

受

高齢の母
食事制限あり
もう
好きなもん好きなように
食べさせて

変

きつと
誰かが跨いできた
昨日と
今日の間の
人生変更線

活

活動三昧だった
これまでの日々
これからは
それを活かして
生きる日々

感

オベ室でモニターを見ていた目を
一寸動かしたら
先生と目が合った
「順調順調」と元気な声
これって神の声?

信

信長が好きだ
やりたい放題
カッコイイ
人生
是非に及ばず

行

確かな
自分を示せるのは
語った
ことより
行つたことだ

※水無月子さん、中野忠彦さん不参加。すばい殿はうた未提出。

果林子、おお瑠璃

「五行歌」巻頭に2首
ひめぼたる五行歌会の果林子さんのうたが、月刊誌「五行歌」7月号の巻頭佳作に2首掲載された。

なせ
今日のな
それにしては
初々しい
5月8日の雪

◇

「どうして帰らなくちゃいけないの」
「明日からは保育園よ」
うなだれる
幼子の背中が小さい

22日のひめぼたるうた会にゲスト参加した宮古「潮風」代表・おお瑠璃さんも6月号に2首掲載されている。

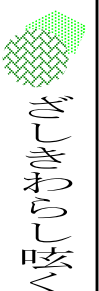
子の作る
お弁当に舌つつみ
緑が笑う
高原の
ベンチ

なりたい自分など
いない
明らかに
満足してる
ちっぽけな私でも

7月うた会 全員揃い華やいで

ひめぼたる7月22日うた会は、8か月ぶりに復帰の水無月子さんをはじめ、全メンバーが久しぶりに揃った。宮古の「潮風」代表・おお瑠璃さんをゲストに迎え、華やいだ雰囲気の中で楽しく行われた。

詳細は、次号ひめぼたる通信で。



智恵子は東京に空が無いという／ほんとの空が見たいという(中略)智恵子は遠くを見ながら言う／阿多多羅山の山の上に／毎日出ている青い空が／智恵子のほんとの空だという／あどけない空の話である。

安達太良山に、先の3連休にかけて行って来ました。読売時代の仲間13人と、3台の車に分乗しての2泊3日のドライブの旅です。初日は秘湯の温泉宿、2日目は南麓のふくしま県民の森フォレストパークあたらしいというキャンプ場でキャンプファイヤーを楽しみました。

雨の晴れ間を縫うような旅。正直言うと、天候はイマイチ、キャンプファイヤーの火もなかなか点かない、それなのに懐かしさでテンションが上がって過ぎて酔っぱらい……。カーブが連続する道に車酔いするメンバーもいて、結構ハードな旅でした。

ぬるぬる
すべすべ
白濁の
温泉はしご
お湯は救いの神

素晴らしき歌集たち

★五行歌の会きんきサロン
3000回記念特集号「みやと鳥」第19号

女店員
「求愛行動を示してください」
オレエッ、抱きつくとか」
女店員
「QRコードを示してください！」

★中島さなきあんの山のむしり

山の向こうにも
山がある
山を越え
知った
美しい山

そらまめ文庫

編集長・小倉はじめ

それは
たった一粒の
種から始まった
そんな
種でありたい

きんきサロンは今年9月で3000回目のうた会を迎えるそうです。歌集は、物故者を偲ぶ「ありがとく」特集などで編集された第1章、40人の現役の自選6首を掲載した第2章。読み応えたっぷりです。30年近い歴史がずしりと重い歌集です。個人歌集を取り上げさせていただいた中島さんも会員です。
それにしても不思議です。どなたともお会いしたことありませんが、以前からお知り合いのような錯覚に囚われます。五行歌には、そんな魔法の力が備わっているのかもしれないね。